

事故種類	労働災害	発生日時	平成26年11月15日 9時46分	事故当事者	1次下請け
事故区分	建設機械	年齢性別	37歳男性	職種	クレーンオペレーター
被災程度(全治)	本工事オペレーター: 左第2指末節部切断指(左人差し指の指先と第一関節の間(爪先)を切断)				
事故概要	<p>○土留仮締切・鋼矢板の圧入施工において、オーガ先端の刃先を矢板圧入タイプに取り替える作業中(クレーンは吊り荷を緩めた状態)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレーン運転手が後方のファンベルトの異音に気づき、 ・エンジンをかけたまま運転席を降り、ファンベルトの点検に行き、 ・右手でファンベルトの張りを直していたところ、 ・左手の革手袋ごとファンベルトと回転軸の間に指を挟まれて、 ・左手人差し指の爪の半分より先端部を切断した事故 <p>○事故発生当時、他の作業者はオーガ刃先の交換を行っており、また、監理技術者もその作業を確認していたため、クレーン運転手が運転席を離れている事に気付いていなかった。</p>				
事故原因等	<ol style="list-style-type: none"> ①異状が発生した際に、誰にも声をかけず自ら確認を行うなど、発生後の対応について不備があった。 ②エンジンを停止しないまま、ファンベルトの調整を行った。 ③ファンベルトの張りを確認する際に、手の感覚のみで確認を行った。 ④整備を行う際に指先に余裕がある革手袋で整備を行った。 				
改善策等	<ol style="list-style-type: none"> ①運転席を離れる時は、必ず周りの誰かに声を掛けることを徹底し、個人判断・行動を禁止する。 ②クレーンの鍵にチェーンをつけ、腰ひもと連結して鍵を抜かないと降りられないようにする。また、目につきやすいところに注意喚起のステッカーを貼る。 ③仮に工事中に点検整備の必要性が生じた場合は、ファンがエアコンのON/OFFに関係なく作動するため必ずエンジンを停止し、バッテリーの端子をはずしてから作業を行う。 ④点検整備の際は、熱にも比較的強く、指に密着する革手を使用する。 <p>※上記のことを踏まえ、建設機械の準備・点検に関する項目をKY活動、点検チェックリストに追記する。</p>				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<p>○オペレーター関連の事故が連続しているが、作業の専門性や経験値が高いことなどから、「これくらいは大丈夫だろう」、「ひとりでもできる」といった意識(慣れ)がつつい不安安全行動につながりやすくなるのではと思われる。</p> <p>○「個人判断・行動は、しない・させない・許さない!」を事務所、現場関係者に周知徹底するとともに、突発的な問題が発生した場合の行動の仕方(対応方針)をあらかじめ決めておくように指導していく(施工計画書への反映を検討)。</p>				

事故状況図

災害発生当時の状況

現場代理人: 現場事務所にて書類作成

バックホウ0.2m³

圧入機(クラッシュバイラー)

普通作業員

オーガ刃先の交換を行っていた

監理技術者

刃先の交換を確認していた

玉掛・溶接工

圧入機OP

圧入機の操作を行っていた

70tラフタークレーン

70tラフテレンクレーン

被災者(クレーン運転手)

・ファンベルトの点検、張りなおしを行っていた

・ファンベルトの張りなおしをしていたところ、革手袋ごと回転していたファンベルトに巻き込まれる。

クレーン後面
ファンベルト調整

70tラフタークレーン

他の作業者は
前方でオーガ刃先の
交換作業を行っていた

被災者

運転席から降りて
クレーン後面へ向かう

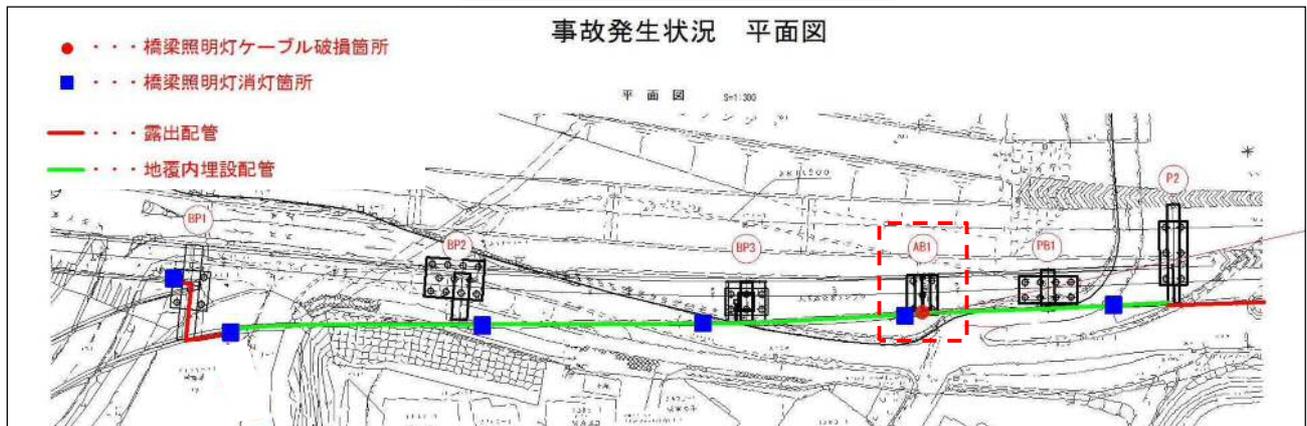
改善策

注意喚起のステッカーを表示

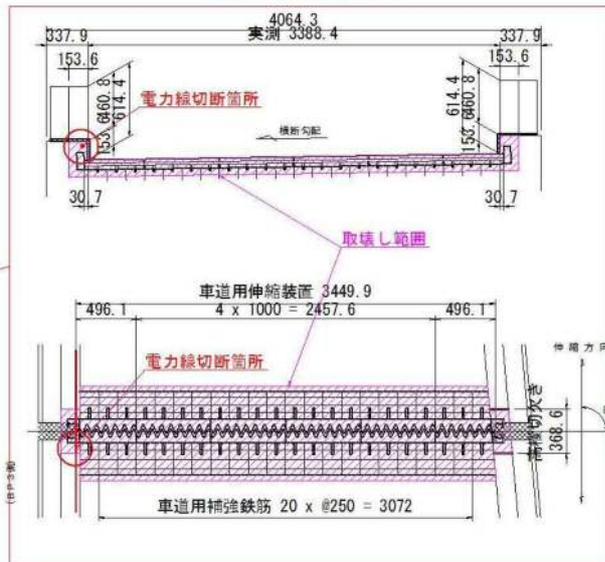
鍵にチェーンを付けて腰紐と連結して、エンジンを停止して鍵を抜かないと降りれなくする。

事故種類	公衆災害	発生日時	平成26年11月25日 22時45分	事故当事者	1次下請け
事故区分	切断	年齢性別	41歳 男性	職種	橋梁補修工
被災程度(全治)	道路照明7灯消灯(11月27日本復旧完了)				
事故概要	伸縮装置取替のため、既設伸縮装置の取り壊しを行っていたところ、地覆部付近に埋設されていた鋼管(電力線入り)をブレーカーにて破損し照明灯配線を切断した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ●事前確認不足 ・橋梁の照明が存在する以上、照明の電力線位置を確認する必要があった。 ・発注者側と埋設配管の位置確認を怠っていた。 ・BP1付近の電力線が桁下に配線されていることを確認していたため、AB1についても同様であろうという思い込みがあった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・施工前に電力線の位置・ルートを現地及び図面等で確認し、監督職員と文書にて打合せを行う。 ・地覆遊間部において、まずシール部を撤去し埋設管等の有無を目視で確認した後に地覆の撤去作業に入る。 ・今後施工箇所には“埋設物がある”という意識をもって、作業手順に記載し、必ず施工業者に周知を行う。 ・また、作業時は監視員を配置し、監視と注意喚起に伴う指示を明確に行う。 ・施工計画書に記載されている緊急時及び事故発生時における連絡手順を確実に遵守する。 ・緊急時及び事故発生時には、即座に監督職員へ必ず連絡し、指示を仰ぐ。 ・緊急時・事故発生時の対応について、当社安全会議の議題とし、事故当事者及び当社社員へ周知・徹底させるよう再教育・再指導を行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	主任監督員より安全点検、架空線・地下埋設物に対する事前調査・確認の徹底及び緊急時等の迅速な連絡について指示を行った。				

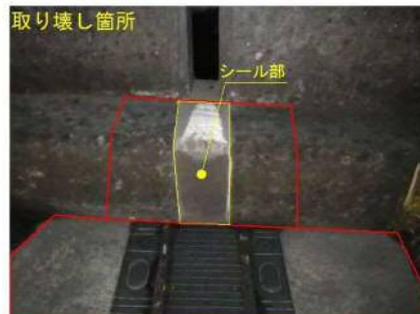
事故状況図



事故発生箇所



取り壊し箇所



シール・電線管撤去後詳細



電線管φ28mm、外径35mm

電力線切断箇所

改善策

- ・施工前に電力線の位置・ルートを現地及び図面等で確認し、監督職員と文書にて打合せを行う。
- ・地覆遊間部において、まずシール部を撤去し埋設管等の有無を目視で確認した後に地覆の撤去作業に入る。
- ・緊急時及び事故発生時には、即座に監督職員へ必ず連絡し、指示を仰ぐ。